

季刊 ジャネット Ja-Net

Ja-NetはJapanese Networkの略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

No. 59

2011年10月25日発行

- ◆ View from the Other Side 3
- ◆ あちこち日本語ご紹介
(岩手県盛岡市) 4
- ◆ あちこち日本語ご紹介
(台湾台北市) 5
- ◆ 教材紹介 6
- ◆ 『会話の授業を楽しくする
コミュニケーションのためのクラス活動40』
『日本語初級2 大地 教師用ガイド』
『5分でできる にほんご 音の聞きわけトレーニング』
- ◆ なんでも情報BOX 8

スリーイーネットワーク

巻頭寄稿

岩手・東北～この魅力ある楽土

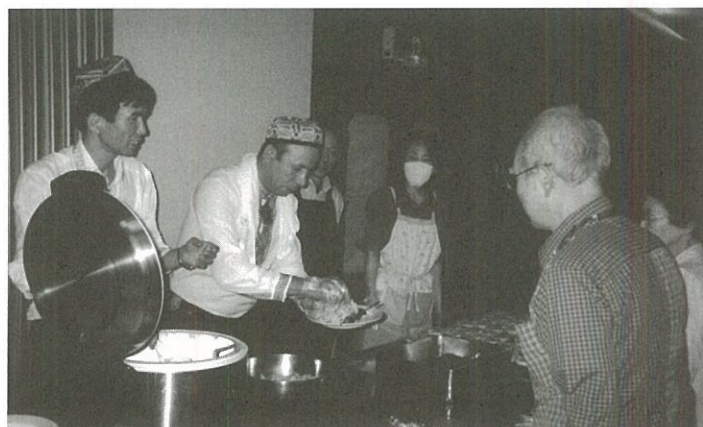
岩手大学国際交流センター教授 岡崎正道



2011年3月11日という日は、東北とりわけ岩手・宮城・福島の三県に住む者にとって、おそらく永遠に忘れられない記憶として留まることであろう。悪夢のようなマグニチュード9.0の巨大地震とそれが誘発した大津波は、この三県の沿岸部を破壊しつくし、2万人余の尊い生命と莫大な財産を一瞬にして奪い去った。そして、やはりこの大地震・津波を原因とする東京電力・福島第一原発の事故は、放射能の恐怖を多くの人々に植えつけ、その影響は様々な形で今なお広範な地域に及んでいる。

私は福島市の北東に位置する梁川町（現伊達市）に生まれ、小学生の時4年間沿岸地方の原町市に住んだこともある。すっかり有名になってしまった、現在の南相馬市である。福島高校を卒業して東北大学に進み、大学・大学院時代とその後の5年間の計19年間で仙台で過ごした。そして37歳の時に岩手大学に赴任し、今年で20年目になる。つまり、これまでの人生のだいたい3分の1ずつを福島・宮城・岩手の東北三県で生きてきたわけである。その三県が今度の東日本大震災に遭遇し、この上なき苦難に喘いでいる。私が今住んでいる盛岡市はさほどの被害はなかったが、かつて自分が居住した青春時代を送った土地がこのような悲惨な状況に陥っているのを見聞きするのは、勿論愉快なことではない。

それゆえ、せめて地元岩手の被災者のために何か役立つことがで



釜石方面からの避難生活者にウイグル人留学生が料理を振舞う(盛岡市つなぎ温泉)

きないかと考え、岩手大学の留学生らにも呼びかけて何度も被災地や盛岡市内の避難所を訪れ、各国の料理を作って振舞ったり民族舞踊を楽しんでもらうなどの活動を、この数ヶ月の間たびたび行ってきた。被災地の惨状を目の当たりにした留学生たちはかなりのショックを受けたようだが、被災者の皆さんのために懸命に努めていた。ささやかな活動ではあるが、意義のある実践であったと満足感も味わっている。

これら被災地に対し国内外の多くの人が、たくさんの救援物資や義援金を贈ってくれた。それは大変ありがたいことであるが、それでもあえて被災地を訪れてみたいとまで思う人は残念ながら少ないであろう。本当は、こういう時にこそ大勢の人々に来てもらいたいのだが、なかなか簡単にはいきまいと思われる。

そういう矢先、めでたいニュースが飛び込んできた。平泉の世界文化遺産登録である。8月8日、留学生と日本人学生約40名を引率して平泉見学に赴いた。すると平日にもかかわらず、かなりの数の観光客が訪れており、中尊寺も毛越寺もごった返していた。平安初期蝦夷の族長アテルイが坂上田村麻呂の征討軍を迎え撃ったと伝えられる達谷窟（たっこくのいわや）など、以前は閑散としていたのに、この日は大型観光バスが停まっていて正直驚いた。やはり世界遺産の名声は大したものである。とにかく何であれ、傷ついた岩手の地に多くの人が足を向けてくれるのは嬉しいことである。今後観光客ばかりでなく、大学や日本語学校などにもこれまで以上の留学生たちが入ってきてくれるようにと願わずにいられない。

岩手の地は「日本のチベット」などと揶揄されたり、何かというと貧困・寒冷・文化レベルの低さといったマイナスのイメージで語られることが多かった。しかし、本当にそうなのであろうか？ 気候の寒冷さは否定しがたい事実だが、貧困や文化的レベル云々については、一面的に捉えるべきではないと思う。

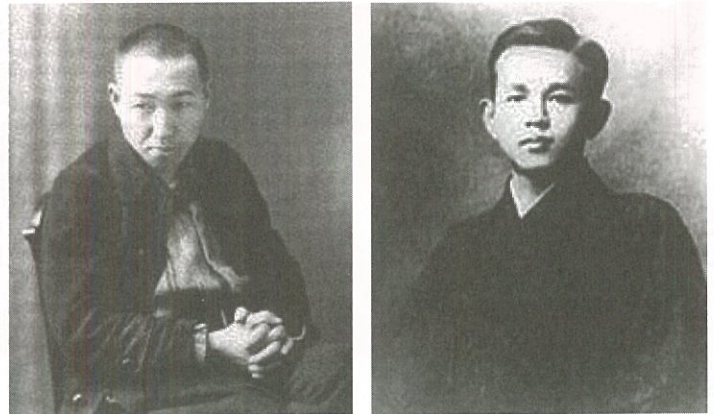
前九年・後三年の戦いを生き抜いて12世紀初めに平泉の繁栄を築き上げた藤原清衡は、仏教の力でこの地を戦乱なき楽土たらしめよ

うと決意した。奥州藤原三代の栄華はかくして実現したのであるが、その後の中央における源平の争乱と源頼朝・義経兄弟の確執はかの地の運命を大きく揺るがし、ついに平泉と藤原氏の滅亡をもたらしたのである。その五百年後にこの地を旅した俳聖松尾芭蕉は「夏草やつわものどもが夢の跡」の名句を残したが、確かに平泉はかつての栄光を失った「夢の跡」と化した感があった。しかし今年晴れて世界遺産登録、それもかつての仇敵頼朝が精魂傾けた鎌倉に先んじての登録実現とは、実に痛快ではなからうか。冥土の藤原秀衡・泰衡父子も、会心の笑みをたたえているに違いない。

岩手の魅力は、決して平泉だけではない。震災で打撃を被ったが、三陸の沿岸は美しいリアス式海岸である。霊鏡和尚が「さながら極楽浄土のごとし」と讃嘆した浄土ヶ浜（宮古市）は美岩と白砂がまばゆいばかり。日本三大鍾乳洞の一つ龍泉洞は、いつも神秘的な魅力をみながらせている。花巻は宮澤賢治の故郷、盛岡からは歌人石川啄木やその友人の言語学者金田一京助、『銭形平次』の野村胡堂、「太平洋の橋」たらんと望んだ新渡戸稲造などが出、首相経験者も原敬・斎藤実・米内光政・鈴木善幸と4人もいる。総理大臣にこそならなかったが、関東大震災後の東京復興に尽力した“大風呂敷”後藤新平は水沢の出身である。その後藤の親戚にあたる蘭学者高野長英は徳川幕府の鎖国政策を批判、逃亡の末に無念の最期を遂げた。これほどに多彩な人物を輩出した県は、日本でも少ないと思われる。

その賢治が30数回も登り、啄木が「ふるさとの山はありがたきかな」と詠んだ名峰岩手山に、先日留学生18人とともに登山してきた。「南部富士」の名で親しまれるこの山は、まさに岩手のシンボルである。盛岡郊外の小岩井農場は広大な面積を有し、NHKドラマ「どんど晴れ」でも紹介された一本桜はこの農場の近くにある。震災後各地から駆けつけた支援者たちのベース基地ともなっている遠野は、伝説と民話の里である。河童・座敷わらし・天狗・山女・おしら様など数々の物語は百年前、民俗学者柳田国男の『遠野物語』にまとめ上げられた。

日本史を、西と東の角逐の歴史と捉える見方がある。アテルイVS坂上田村麻呂、前九年・後三年の役、源頼朝の奥州征討、(伊達政宗らも屈した)豊臣秀吉の支配、そして戊辰戦争。古代～近代の五度の戦いで、全て東北の地は西の政治権力に敗れ去った。その結果東



岩手が生んだ宮澤賢治(左)と石川啄木(右) 出典: ウィキペディア

北地方は「白河以北、一山百文」と侮られ(新聞社「河北新報」の名はここに由来する)、明治以後の近代化の過程で不当に貶められてきたと言えるであろう。しかし東京一極集中の積弊が様々に指摘される今日、再びみちのくの地に改めて光が当てられることを大いに期待したいと思う。

私は留学生を連れて、盛岡周辺の名所は勿論、近県の観光地などもしばしば訪ねている。十和田湖・奥入瀬渓流・田沢湖など、自然の風光を楽しめる所は少なくない。先日は留学生たちと津軽半島の龍飛岬と太宰治の斜陽館、さらに別の日には下北半島の恐山へ赴いた。一度に連れていける人数は限られているが、教室の中での授業だけでは得られない東北の魅力を実際に感じとってもらうには、現地に誘うのが一番である。

以前どこかの放送局が、全部の県の県都の駅前で迷った旅人を装って道を尋ね、どこが最も親切かを調べる実験をしたことがあるそうである。一等に選ばれたのは岩手県であったという。数年前に入学したある中国人女子留学生が、作文に書いていた。

彼女は自分の留学先である岩手・盛岡という土地を全く知らず、日本と言えば東京・大阪などの大都市をイメージしていたらしい。ところが盛岡に着いてみるとあふれる人混みもなければ、高層ビルも見当たらない。彼女は先輩の留学生に「同じ日本なのに、何故ここは私のイメージと全然違うんですか?」と思い切って聞いてみた。するとその先輩は直接質問には答えず、代わりにこう言ったという。「そうかもしれないけど、でもね、あたし、この町好きなの」この言葉を聞いて、彼女は気持ちが変わったという。そうしたら、盛岡の美しさがいろいろと見えてきた。作文の末尾を、彼女はこう締めくくっている。「盛岡はもう私の心の中であって、永遠に消せない存在だ」と。

岡崎正道 (おかざき・まさみち)

岩手大学国際交流センター教授。1954年福島県生まれ。東北大学大学院日本思想史学科修了。専門は日本語教育、日本思想史。主な著作・論文に『異端と反逆の思想史』(1999)、『校則はいらない』(2000)『国際交流と国際理解—これまでの幾多の実践を通して—』(2010)『東日本大震災と留学生』(2011)など。

外国人留学生に対する日本語・日本事情等の指導や彼らとの交流を通して日本の姿を改めて見つめ直し、わが国とアジアとの関係を歴史的に考察している。



2011年6月26日、ベトナム人留学生とモンゴル人留学生が盛岡市郊外で東日本大震災復興祈念植樹を行った

学習者の目

View from the Other Side

このコラムでは、
学習者の視点での話題を
お届けします

「ことばが大切」「日本社会を理解することが必要」
日本で働く元留学生の斉暁兵さんと趙燁さんに聞きました

——日本に留学されたきっかけは何だったのでしょうか。

趙：私は高校を卒業した後、外の世界を見てみたかった。アメリカやオーストラリアでもよかったです、たまたま日本へ来るチャンスがありました。

日本語を勉強していなかったの
で日本へ来てから
日本語学校へ通っ
て、それから大学へ進
学しました。



斉：私は文革（1966～1976）を経験した世代です。瀋陽で生まれましたが、幼いころに内モンゴルへ移住して、20歳になったときに瀋陽へ戻って大学へ入りました。大学では日本文学を専攻し、卒業後、日本語・中国語の通訳や翻訳の仕事をしたのですが、日本の企業や日本について知らないこと、わからないことがたくさんあることを痛感していました。そんな時、日本の「留学生10万人計画」のことを知り、日本留学のチャンスをつかみました。

向井
卓

趙さんと同じく日本語学校で学んでから、上智大学大学院修士課程新聞学専攻に進学しました。

——お二人とも大学を卒業してすぐに倉敷印刷さんに入社されたそうですね。印刷会社を選ばれた理由は何かありますか。

斉：修士課程修了後は博士課程へ進むことを決めていたのですが、同じく留学生だった妻が妊娠したことがわかり、就職することにしました。日本で生活していこうと考えていたので、転勤や出張のない職場を探しました。新聞学専攻だったので、出版や印刷に関係する仕事に興味がありました。入社して20年経ちました。

趙：私は、知人の紹介で入社して10年になります。中国で高校を卒業して好奇心だけで日本に留学。大学では経営学を勉強しましたので、今の仕事は直接は関係がないかもしれませんが、私は本が大好きなのでそれに関係するような仕事をしたいと思っていました。

——お二人とも本造りや印刷の仕事に興味をお持ちだったんですね。

斉：私が入社したころ、当社では中国語の電算写植を導入したばか

りでした。まだパソコンが普及していない時代です。大学で学んだ新聞や出版についての知識が生かせると思いました。

また、会社にとっても初めての中国人社員採用ということで、期待されていたのでは、と思います。

趙：本がどのように出来上がるのかとても興味がありました。

——入社当時、何か不自由は感じませんでしたか。今、日本で就職しようかどうか迷っている留学生へのアドバイスなどお願いします。

趙：日本で暮らし、働くためには、ことばが大切です。勇気を持って話すことが第一歩。もちろん勉強することが前提ですが。

私は中国で、社会人としての経験はありませんでしたし、特に日本の会社での不自由さは感じませんでした。今、日本で違和感なく暮らしています。

斉：ことばだけでなく、日本社会を理解することが必要だと思います。日本の文化や生活について知らないとコミュニケーションがうまくいかないことがあり、誤解を生むことがあります。

また、情報に踊らされずに、自分で判断ができるようになることが大事だと思います。仕事を続けていくうちに、だんだん、中国人、日本人という意識はなくなっていました。

——日本の会社で10年、20年と経験を積まれた今、考えることがありますか。

趙：私も、今、中国人・日本人という意識はありませんね。仕事のキャリアを積み上げていきたいと思っています。

斉：息子が大学生になって、やっと自分から中国語の勉強を始めるようになってほっとしているところです。小さいころに中国語を勉強する環境をもっとつくれば、と後悔していましたから。

仕事で、中国でもよく使われている日本語の教科書『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』を担当したので、国に帰った時にちょっと誇らしい気持ちになります。これからも責任ある仕事を果たしていきたいと思っています。

斉暁兵さん

中国、瀋陽生まれ。1988年来日。日本語学校を経て、上智大学大学院修士課程新聞学専攻入学。1991年修士課程修了後、倉敷印刷株式会社入社。制作部所属。

趙燁さん

中国、北京生まれ。1992年来日。日本語学校を経て、拓殖大学入学。経営学専攻。2000年大学卒業、倉敷印刷株式会社入社。制作部所属。

あちこち 日本語

ご紹介 国内編



岩手県盛岡市

日本語教室の絆

公益法人 岩手県国際交流協会 川村央隆

東日本大震災に際し多大なるご支援や励ましをいただきましたことに深く感謝申し上げます。また、震災や大津波で被害にあわれました皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。

岩手県におきましては、スリーエーネットワークを始めとする日本語教育関係の皆様や日本語教材各社から、被災した陸前高田市と宮古市の日本語教室等へ教材の御支援をいただいています。また、日本語教育学会からも被災地への支援として支援金を頂戴しています。そして、武蔵野市国際交流協会有志の会の皆様から、被災した在住外国人等への物資支援を長期にわたりいただいています。

この他、NGOやNPO、個人のボランティアの方々など多くの皆様の御支援により、被災した在住外国人と共に復興に向けた取り組みを進めています。

岩手県内の日本語教室

岩手県では、震災前には約130万人の総人口に概ね6千人の外国人登録者が広い県土に散在している地域で、34ある市町村に23の日本語教室がありました。

市町村国際交流協会等でも在住外国人との交流を持っていましたが、在住外国人との接点は日本語教室が最も深いので、必然的に相談ごとなども日本語教室に持ち込まれていました。そこで、昨年度において中国人の外国人相談専門員と共に県内日本語教室を巡回し、相談対応等行いました。

その際に、被災した宮古市のオーシャンズ日本語教室と陸前高田市の陸前高田

市国際交流協会日本語教室でも参加している在住外国人にお会いしました。

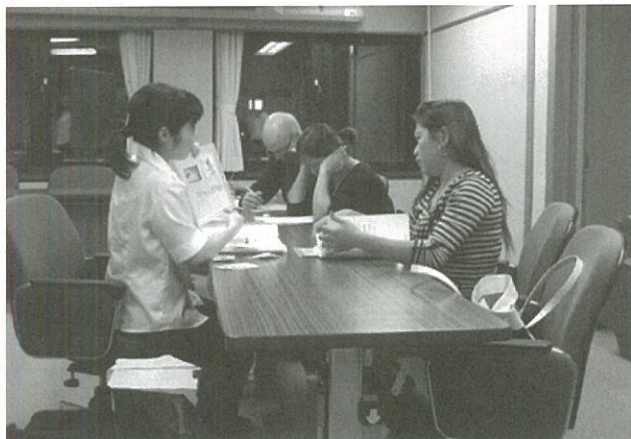
岩手県で亡くなられたアメリカ人語学指導助手(ALT)のモンティさんとお会いしたのもその時でした。モンティさんは日本語能力試験1級を取っています。なぜその日本語力を生かせる国際交流員(CIR)ではなくALTなのか訊ねたところ、将来、日本語教師になるために「教える」訓練をしているとばかりかみながら話してくれました。

日本語教師

3月11日から2日間は停電などライフラインの遮断により、被災地での被害状況を確認するすべがありませんでした。盛岡から被災地である沿岸部へは、近いところでも片道2時間、約100キロ以上あります。被害の大きかった宮古市以南とは、通信網が徐々に回復し始めても頼みとしていた市町村国際交流協会などと連絡が取れず、在住外国人の被害状況が把握できない日々が続きました。

宮古市から始まった被災地での情報収集は、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市と各地の役所へ赴いて在住外国人の被災状況を確認することで手一杯でした。そして、最後に赴いた陸前高田市で、昨年度にお会いした陸前高田市国際交流協会事務局である市教育委員会担当職員全員の訃報をお聞きすることになったのです。その時に、所在不明なモンティさんを探すメッセージを目にしました。

現地とのつながりを失ってしまい、苦慮していたところ、内陸部の日本語教室代表の方から、陸前高田市の日本語教師が無事で、隣の大船渡市に避難されているという情報がもたらされたのです。その日本語教



昨年の陸前高田市日本語教室の様子。奥の男性がモンティさん

師を通じて、日本語教室の学習者の情報、その学習者が把握している他の在住外国人の状況を知らせていただきました。役所が混乱して在住外国人まで手が回らなかったときにでも、遠隔地の当協会ができなかったことをしていただき、きめ細やかな情報収集をすることができました。これも、普段からの日本語教室で培った信頼関係だということ強く再認識しました。

日本語教室の再開

被災地では避難所がすべて閉鎖され、日常へ戻るための努力が今も続いています。宮古市では早期に日本語教室が再開し、今まであまり顔をみ出さなかった在住外国人も余震の不安を訴えて顔をみ出すなど、よりどころとしての日本語教室の存在意義が増していると聞いています。また、陸前高田市でも仮設施設を使い文化庁の委託事業で日本語教室が再開されるので、今まで以上に活気ある日本語教室になるのではと期待しています。

復興には長い年月を要します。犠牲になられた方々の御冥福をお祈りするとともに、これから岩手が復興するために、岩手に暮らす外国人の方々とともに知恵を出し合いながら、より良い岩手となるよう取り組んでいきたいと考えています。

あちこち

日本語

ご紹介 海外編



台湾台北市

伝える力を育てる
遠隔授業玉川学園学園マルチメディアリソースセンター非常勤研究員
宮田聖子

台湾の稲江高校日本語科と玉川学園学園マルチメディアリソースセンターの間で行われている同期型双方向日本語遠隔授業

「皆さん、お元気ですか？」

「(一斉に) は〜い。元気です。」

「台湾は涼しいですか？ セーターを着ている人がいますね。」

「はい。今日は雨が降っています。日本はどうですか？」

「日本はこんな天気です。」(窓の外を映すと歓声が上がる)

「いい天気ですね〜！」

台湾の台北市にある女子高、稲江高級護理事業職業学校（以下稲江高校）では日本語科の2・3年生の授業で週に2回、日本の玉川学園の学園マルチメディアリソースセンター（以下学園MMRC）からテレビ会議システムを利用した同期型双方向の遠隔授業が行われています。上の会話は画面を通して交わされたある日の冒頭のやり取りです。

リアルタイムに繋がるからこそできることを

稲江高校の日本語科には1学年およそ100名の生徒が在籍しています。専任教師6名（うち日本人2名）により、一般科目の他に1週間に約10コマ（1コマ50分）の日本語関連の授業が行われ、この遠隔授業も年間

を通してこのカリキュラムに組み込まれています。遠隔授業を通して、生徒たちは継続的に日本とリアルタイムに繋がり、日本からの情報を得たり日本語でやり取りをする機会を持てるわけで、これは海外の中等教育機関としては大変

充実した日本語学習環境と言えるでしょう。

遠隔授業は学園MMRCの担当講師により約10年前から教材開発・授業運営が行われています。現地では出来ない、遠隔授業の特性を最大限活かした内容をと検討を重ね、現在は現地で培った日本語力を活かして行う、以下の3つの要素を重視した授業を行っています。

- (1)日本側との情報交換を楽しむ
- (2)まとまった内容を発表する力を養う
- (3)自分の考えを述べる

2年生では日本の高校生が主人公のオリジナルDVD教材（「美樹-高校生の生活-朝篇」）とそれに準拠したテキストを使用しています。これは美樹という日本の高校生が朝起きてから登校するまでを紹介したもので、このDVDに盛り込まれているさまざまな事柄をトピックとして取り上げ、日本と台湾の違いや自分のことについて発表するスピーチを作っていきます。2011年は「小さい秘密」「趣味・好きなこと」「部活動」等をトピックにしました。

3年生ではグループを作り日本の高校生に尋ねたいことを玉川学園の高校生に向けてアンケート調査し、分かったことや考え

たことをビデオ作品と報告書にまとめていくプロジェクトワークを行います。「制服」「化粧」「お小遣いの使い方」など高校生ならではのテーマが選ばれ、毎年趣向を凝らした作品ができます。どちらの学年も日本語を学ぶだけでなく、日本や台湾の事情に目を向け興味を持って取り組んでいくことを重視しています。

日本語で伝えたい気持ちを育てる

稲江高校側での日本語授業は中国語を使って行われていますが、遠隔授業は日本語だけで行われます。生徒たちにしてみれば、教師の日本語のみでの説明を理解する事にも、どんどん発言を促される授業のスタイルにも慣れていない上に、画面に向かってマイクを持って発表しなければならないのですから大変です。2年生の最初は戸惑う生徒がほとんどです。ですから新学期は「日本語で発表する事は楽しいことだ。」という意識を育てるところから始めます。週に2回、自分の発表に日本側から感心したり、驚いたりというリアルな反応が返ってくることを体験する中で、数カ月もすると発表したい生徒が列を作るようになります。自分の考えを日本語で伝える楽しさに気付きはじめるのでしょうか。好きな芸能人の事を事細かに紹介してくれる生徒、特技を披露してくれる生徒、次第に発表のために未習の言葉や表現を調べ練り上げた原稿を用意する生徒も出てきます。

10代という多感な時期に日本語を専門として学習する彼女たちが、嬉々として日本語で自分を伝えようとする様子、コミュニケーションツールとして日本語を身につけていく様子には大変頼もしいものを感じます。遠隔授業を通して伝えあう喜びを十分に体験した彼女たちの中から、将来日本と台湾の交流を支える人材が出てくるかもしれないと、そんなことも夢見ています。

教材 紹介

『会話の授業を楽しくする コミュニケーションのためのクラス活動 40』 『日本語初級 2 大地 教師用ガイド「教え方」と「文型説明」』 『5分でできる にほんご 音の聞きわけトレーニング』

『会話の授業を楽しくする コミュニケーションのためのクラス活動 40』

一橋大学准教授 石黒 圭

自分が日本語学習者であったなら、自分が担当するクラスで日本語を教わりたいか。これは、日本語教師にとって究極の問いでしょう。

もし、ためらいなく「教わりたくない」と答えるなら、その人はきっと日本語教師には向いていません。しかし、もし、何の留保もなく「教わりたい」と答える人がいたら、私はその人に日本語を教わりたいとは思わないでしょう。現実には、そのように答える人はきわめてまれで、おそらくほとんどの教師が、ためらいつつ、あるいは何らかの留保つきで答えるのではないのでしょうか。

もし、私自身が、会話の授業についてそのような問いを向けられたら、講義のように多くの人のまえで一方的に話す独話 (monologue) の授業ならば、ためらいつつもイエス、パーティートークのように双方向的に話す対話 (dialogue) の授業ならば、ためらわずノーと答えそうです。私自身はけっして話がうまいほうではないのですが、今年度担当した講義で、ある日本人学生から「先生のわかりやすい話し方に憧れている」という授業評価をもらい、ちょっと自信ができました。一方、対話はまったくダメで、親しくない人との雑談がとくに苦手。どうしても言葉のキャッチボールにならないのです。

思えば、私が日本語教師になって初めて担当したクラスは、いわゆるゼロ初級のクラスでした。そのなかに対話能力がきわめて高いハンガリー人の男性がいました。その彼は、来日1ヶ月後のゴールデンウィークまっただなか、観光地のホテルに行って日本語で交渉し、破格のディスカウントで泊めてもらうことに成功したのだそうです。1ヶ月程度の日本語学習歴でいったい彼はどんなことを話し、交渉を成功させたのでしょうか。少なくとも彼の対話能力は個別言語を超えていることは間違いありません。

会話の授業に自信がない教師は、きっと私だけではないと思います。ところが、教師をしていると、その会話の授業を、有無を言わず担当させられることがあるものです。

そこで、私が考えたのは人の力を借りることです。その借り方には二つあります。

一つは、会話の授業が得意な教師の力を借りることです。一橋大学に出講されている講師の方々は、不思議なことに、どの方も会話の授業のノウハウを、しかもそれぞれの個性に基づく多岐にわたる

●本書の構成 (各課のタイトルと目的)

■第1部 ともかく話す： 自分の言いたいことを、自分の言葉で伝える

- | | | |
|-----|------------|-------------------------------|
| 第1課 | おしゃべりの引き出し | ・自分にかんする多様な話題について日本語で話すことに慣れる |
| 第2課 | 個人的な自己紹介 | ・少ない語彙でも自分のことを説明できるようになる |
| 第3課 | 私の自慢 | ・「どれくらい」という程度を具体的にかつ魅力的に語る |
| 第4課 | 雑談力をみがく | ・雑談の場で、自分から会話を始め、会話をリードする |
| 第5課 | チームで協力! | ・自己の役割を明確に持って、議論の場に参加する |

■第2部 聞き手を意識： 自分の言いたいことを、聞き手を意識して調整して伝える

- | | | |
|-----|------------|--------------------------------|
| 第1課 | ウソを見破れ! | ・聞き手の理解を想定して情報を取捨選択して話す |
| 第2課 | 話し方とキャラクター | ・コミュニケーションのタイプを知りそれに合った話し方をする |
| 第3課 | 偶然について話す | ・情報を取捨選択し、関連づけてわかりやすく話す方法を学ぶ |
| 第4課 | コメント力をきたえる | ・たがいにコメントしあいながら作文の表現や内容を改善する |
| 第5課 | 上手な意見の伝え方 | ・他者との交渉をとおして自分の考えやその伝え方を見つめなおす |

■第3部 内容を整理： 自分の言いたいことを、内容を整理して説得的に伝える

- | | | |
|-----|-----------|------------------------------|
| 第1課 | 説得のコツ | ・聞き手の理解に合わせて情報量や出し方を調整して伝える |
| 第2課 | これは誰の意見? | ・引用の方法を理解し他の意見を区別する方法を学ぶ |
| 第3課 | フィラーにトライ! | ・フィラーの働きを理解し自然な印象でスピーチをおこなう |
| 第4課 | 依頼のテクニック | ・相手の気持ちに配慮して依頼交渉を円滑に進める |
| 第5課 | 説得の技術 | ・反論が想定される自己の主張を相手に納得させる技術を学ぶ |

■第4部 聞き手に配慮： 自分の言いたいことを、聞き手の感情に配慮して伝える

- | | | |
|-----|-----------|-------------------------------|
| 第1課 | 私ならあなたなら | ・聞き手の感情に配慮しながら言うべきことを明確に伝える |
| 第2課 | あなたも私も幸せに | ・相手の気持ちや状況に応じて柔軟な対応ができるようになる |
| 第3課 | いらっしゃいませ | ・相手の性格を考慮し、相手にとって心地よいほめ方をする |
| 第4課 | とっさの一言 | ・周囲との関係を良好に保ちながら気まずい場面を切り抜ける |
| 第5課 | ユーモアを交えて | ・日常の何気ない出来事をおもしろく伝える発想や方法を考える |

ノウハウを持っています。そこで、私はそうした講師の方々に教えるを請いました。そのエッセンスが本書に結実しています。

もう一つは、会話が得意な学習者の力を借りることです。先のハンガリー人の学生のように、言語を超えた高い会話能力を備えている学生は少なくなく、そのノウハウを教室全体で共有すれば、会話が得意でない学生の会話能力を伸ばすこともできます。また、自分の話す話し方は自分自身ではわからないもので、その改善には、クラスメイトを聞き役に、モニターしてもらうのが最良の方法です。

会話の授業は、教師自身が会話上手でなくても、ノウハウさえわかれば、学習者のコミュニケーション能力を伸ばすことが可能です。本書は、会話の授業を急に担当せざるを得なくなった、私のような会話ベタの教師の方々のお役に立てると信じています。

会話の授業を楽しくする コミュニケーションのための クラス活動 40

B5判 250頁、1,890円

石黒圭 編著、安部達雄・新城直樹・有田佳代子・
植松容子・渋谷実希・志村ゆかり・筒井千絵 著



『日本語初級 2 大地 教師用ガイド「教え方」と「文型説明」』

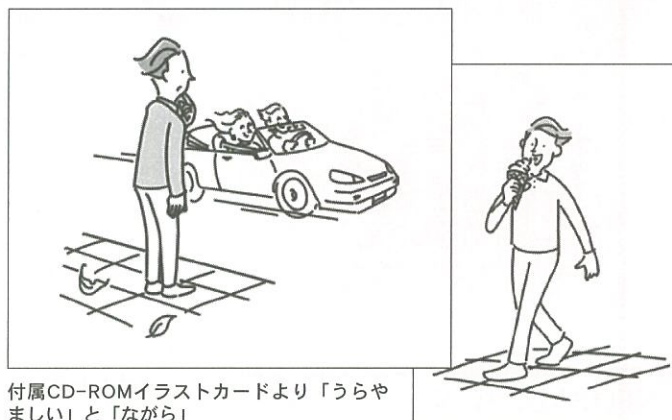
山崎佳子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子

『日本語初級 大地』は初級段階から自分自身を語り、状況に合わせてコミュニケーションができる能力の育成を目指して作られた総合教科書です。豊富なイラストや多様なタスクは教室活動を活性化させます。更なる教室活動を充実させるための『教師用ガイド2』が発行されました。

1章は『メインテキスト』の全体構成を、2章は各課の練習問題の教え方を、3章は文型説明を掲載しました。

教師を強力にバックアップするため、付属のCD-ROMには、イラストカード (PDF 157点)、ワークシート (Excel 12点)、語彙リスト (Excel)、音声 (39課導入用効果音) を収録しました。イラストをプリントアウトして絵カードを作ったり、語彙リストで既習語彙をチェックしたりすることができるので、授業準備に大変便利です。発展的な活動 (ロールプレイやインタビューなど) のためのワークシートも、ぜひ活用してください。

2章「各課の教え方」では、最初に課としての「到達目標」を示しています。そして練習それぞれについて「ポイント」、その練習の中で出てくる「新出語」、練習をするために事前に「用意するもの」を明記しています。そして「練習の仕方」を具体的に説明し、効果的な「板書」の仕方も必要に応じて提示しています。実際に教えた際に出てきやすい間違いへの対応などを「留意点」と、「発展練習」として、それぞれの練習の延長として行える練習例も示しています。



付属CD-ROMイラストカードより「うらやましい」と「ながら」

3章「文型説明」では学習項目ごとの説明が日本語で書かれています。これは英語版、中国語版、韓国語版がある『文型説明と翻訳』の文型説明の日本語版ですので、学習者の読んでいる文型説明の内容を確認することもできます。

日本語初級 2 大地 教師用ガイド
「教え方」と「文型説明」

B5判 160頁+CD-ROM 1枚付、2,940円
山崎佳子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子 著

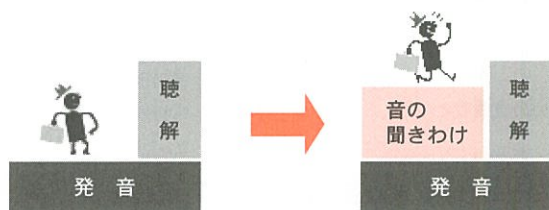


『5分でできる にほんご 音の聞きわけトレーニング』

東京学芸大学留学生センター/東京工科大学学習支援センター非常勤講師 宮本典以子

日本語教育に携わって20年目にして、アラビア語話者だけのクラスを担当する、という経験をしました。これまでの経験が何の役にも立たないかのような挫折感を味わう一方で、学習者とともに問題を解決する楽しさも再確認できました。本書は、そのとき使用した教材をもとに、さらに国籍混合クラスで使用しながら内容を補充改訂した、音の聞きわけ練習のための教材です。

本書開発のねらいは、発音はできるが聴解は苦手という状況の改善のため、音の聞きわけという1ステップを設けることでした。



具体的には、似ている二つの音を聞く練習を通して、

- ① まず音に違いがあることに気づき
- ② さらに音が聞き分けられるようになる

ことを目指しています。

練習にはすべてローマ字がついていますので、ひらがな未習者でも使用できます。また中上級レベルの学習者にとっては、以下の例

(練習内容)

拍の聞きわけ、母音、[i]と[e]、[u]と[o]、長母音、促音、拗音、撥音、[k]と[g]、[t]と[d]、[p]と[b]、[d]と[n]と[r]、[shi]と[chi]、[tsu]と[chu]と[su]、[s]と[sh]、[z]と[j]、母音の無声化、複合語

のように語彙や表現の意味がわかることでさらに楽しめる内容になっています。

「ち」と「し」のディクテーション例：

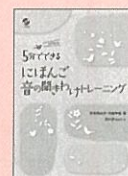
(ちりとり/しりとり)は、とりではありません。

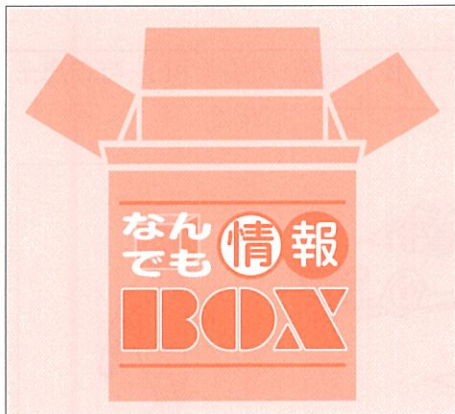
一つの練習は5分程度でできるコンパクトな内容です。CDがついており、授業でも独学でも使用可能です。

本書が音の聞きわけに問題を感じている皆様のお役に立つことを願っております。

5分でできる
にほんご 音の聞きわけトレーニング

B5判 67頁+別冊 15頁、CD 1枚付、1,470円
宮本典以子・大崎伸城 著





INFORMATION お知らせ

スリーエーネットワーク事務所移転のお知らせ

●この度、スリーエーネットワークは以下の住所に移転します。
〒102-0083
東京都千代田区麹町3丁目4番
トラスティ麹町ビル2階

移転日、電話番号等、詳細につきましては、決定次第当社ホームページ他でご案内いたします。

みんなの日本語 初級 I ポーランド語訳完成!

●ご希望の方は営業広報部まで電話・FAX、またはメールにてお申し込みください。1部800円です(消費税・送料込み/国内)。

SEMINARS セミナー

**◆スリーエーネットワーク主催新刊説明会
『会話の授業を楽しくする
コミュニケーションのためのクラス活動 40』**

日時：11月26日(土) 14:00~16:00 (受付開始 13:30)
会場：日本教育会館 707号室
(東京都千代田区一ツ橋2-6-2)
講師：石黒圭、安部達雄、有田佳代子、植松容子、志村ゆかり、筒井千絵 (『会話の授業を楽しくする コミュニケーションのためのクラス活動 40』編者、共著者)
定員：80名 (先着順)
参加費：無料

●お問い合わせ/お申込み：
スリーエーネットワーク講座係
TEL: 03-3292-6193 FAX: 03-3292-6194
e-mail: kouza@3anet.co.jp
101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル
住所・氏名・所属・電話番号を明記のうえ、電話・FAX・メールにてお申し込みください。

BOOKS

ほん

会話の授業を楽しくする コミュニケーションのためのクラス活動 40

発売中 1,890円

5分でできる にほんご 音の聞きわけトレーニング

発売中 1,470円

日本語 おしゃべりのたね 第2版

発売中 1,680円

トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級資料集 第4版

発売中 2,205円

日本語初級2 大地 教師用ガイド「教え方」と「文型説明」

近刊 2,940円

すべて税込価格です

**■地域で活動する日本語ボランティアのための
研修会 in 札幌**

日時：11月12日(土) 13:00~16:25 (受付開始 12:00)
会場：北海道建設会館 (札幌市中央区北4条西3-1)
定員：100名 (先着順)
参加費：無料
主催：北海道日本語教育ネットワーク
共催：アルク、スリーエーネットワーク、凡人社

●内容/スケジュール (予定)

- 13:00 研修会1 もっと楽しもう! 日本語ボランティア~目指せ、対話力アップ(実践編)
吉田聖子 ((社)日本語教育学会人材育成プロジェクト・コーディネーター、『外国人と対話しよう! にほんごボランティア手帖 すぐに使える活動ネタ集』著者)
- 14:10 研修会2 地域日本語教育で実践的に役立つ文法とは
原沢伊都夫(静岡大学国際交流センター教授、『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』著者)
- 15:25 研修会3 新しい日本語能力試験が問う「運用力」って何?
安藤栄里子 (MANABI外語学院新宿校副校長、『耳から覚える日本語能力試験』シリーズ著者)
- 16:25 講演終了予定

**■地域で活動する日本語ボランティアのための
研修会 in 群馬**

日時：12月18日(日) 13:00~16:25 (受付開始 12:00)
会場：伊勢崎市民プラザ第一研修室・第二研修室 (群馬県伊勢崎市富塚町220-13)
定員：100名 (先着順)
参加費：無料
主催：アルク、スリーエーネットワーク、凡人社
共催：(財)群馬県観光国際協会

●内容/スケジュール (予定)

- 13:00 研修会1 地域日本語教室のための支援者と学習者をつなぐために
宿谷和子 (にほんごの会 会員、杉並でくらす外国人のためのにほんご教室担当講師、『いっばにほんごさんば 暮らしの日本語教室 初級1』著者)
- 14:10 研修会2 授業を豊かにするために~楽しく

効果的な授業の広げ方

鈴木英子 ((財)宮城県国際交流協会日本語講師、『はじめての授業キット』著者)

15:25 研修会3 教材を探そう! ~にほんご専門書店から見た学習者にあった教材とは? ~
坂井訓久 (株)凡人社麹町店長)

■上記2件のお問い合わせ/お申込み:

凡人社営業部 (担当・坂井)
TEL: 03-3263-3959 FAX: 03-3263-3116
e-mail: ksakai@bonjinsha.com

- ・当日は日本語教材の展示・販売を予定しております。会場限定の割り引きあり!
- ・内容/スケジュールは変更する場合がございます。

**■九州日本語教育連絡協議会 2011年度12月研修会
「漢字(語彙)教育のあり方を問い直す」**

日時：12月10日(土) 13:00~17:00 (受付開始 12:30)
会場：九州大学箱崎キャンパス 旧工学部本館10番教室 (地下鉄箱崎線「箱崎九大前駅」下車)
定員：90名
参加費：1,000円 (当日納入)
*会員や学生の割引はありません。
主催：九州日本語教育連絡協議会
共催：スリーエーネットワーク
販売：大谷書店

第1部(講演)：漢字(語彙)教育について考える
加納千恵子(筑波大学大学院人文社会科学系研究科(留学生センター)教授)

第2部(パネルセッション)：
様々な場面での「漢字(語彙)教育のあり方」とは
進行：小山悟(九州大学留学生センター准教授)
パネリスト：

- 加納千恵子(筑波大学)
- 清水百合(前九州大学留学生センター教授)
- 郭俊海(九州大学留学生センター准教授)

申込み：不要、直接会場にお越しください。
お問い合わせ：九州大学留学生センター 小山悟
e-mail: koyama@isc.kyushu-u.ac.jp

●『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。『Ja-Net』第60号は2012年1月25日発行です。

Ja-Net 季刊ジャネット No. 59

スリーエーネットワークという社名は、アジア (Asia)、アフリカ (Africa)、ラテン・アメリカ (Latin America) のいわゆる発展途上国の多くが存在する三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2011年10月25日発行

●発行人 小林卓爾
●発行所 (株)スリーエーネットワーク
営業広報部 Ja-Net 編集室

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル
TEL: 03-3292-6193 FAX: 03-3292-6194
E-mail: ja-net@3anet.co.jp http://www.3anet.co.jp/

●印刷 日本印刷(株)
© 2011 by 3A Corporation Printed in Japan (禁無断転載)